

[総 説]

看護基礎教育における批判的思考の研究動向

伊東 香織¹・柴田 恵子²

【要 旨】

〔目的〕 看護基礎教育における批判的思考習得の研究動向を文献調査により明らかにする。

〔方法〕 医中誌 web、最新看護索引 web、メディカルオンラインを用いて、「批判的思考」「クリティカルシンキング」「看護基礎教育」をキーワードとして検索して文献を抽出し、発表時期、研究の対象となった学年、授業形態、学習活動に分類した。

〔結果〕 16件の文献を抽出した。2012年以降研究の実施数が増加傾向にあった。研究の対象となった学年と授業形態の関係では、講義（3件）はいずれも1年生を対象とし、演習（5件）のうち4件は2年生を対象、臨地実習（2件）は3年生と4年生を対象としていた。学習形態は、グループ学習を用いた学習活動が11件で、講義・演習では授業後の「客観的で冷静な判断」「誠実さと他者を尊重する態度」「問題解決のスキル」「グループ討議のスキル」「論理的思考への自信」の得点が有意に高く、臨地実習ではクリティカルシンキングを使用する状況として「意見交換」「内省」が報告されていた。

〔考察〕 看護実践における批判的思考力の獲得については、学年進行と授業形態に関連づける傾向が示唆された。批判的思考を習得する学習活動において、講義、演習、実習のいずれの授業形態でも批判的思考力の獲得に有効であると示唆されたのはグループ学習であった。

キーワード：批判的思考、看護基礎教育、授業形態、グループ学習

【緒言】

近年、少子高齢化の加速により医療・介護ニーズが急増することが予測され、地域医療構想の実現や地域包括ケアシステム構築の推進、情報通信技術（ICT）の導入など、医療提供体制が大きく変化しようとしている。日本看護協会は、地域包括ケアシステムの構築にともなって、療養の場が「医療機関から生活の場」へ移行するため、地域における看護活動を内容的にも、量的にも拡充する¹⁾、と表明している。一方で、価値観の多様化や社会の医療に対する意識の高まりによって、看護のニーズも多様で複雑になっている。また、情報通信技術（ICT）のさらなる発達により、社会生活が変化する可能性が考えられ、看護師には社会情勢の変化に対応できる看護実践能力が求められている。

わが国の看護基礎教育課程は、看護師免許取得前

の教育課程であり、文部科学大臣または厚生労働大臣が指定する保健師助産師看護師学校養成所において行われている。2011（平成23）年、文部科学省は「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会（最終報告）」²⁾をまとめ、学士課程教育においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標を策定した。その中で、社会の要請に応えられる看護実践能力として、具体的に身につけるべき5つの能力群とそれぞれの群を構成する20の看護実践能力が提示されている。そのうち、Ⅱ群「根拠に基づき看護を計画的に実践する能力」の一つである『計画的に看護を実践する能力』が批判的思考に基づく能力であることが示されている。批判的思考とは、「客観的にものごとをとらえ、多面的・多角的に検討し、適切な基準に基づき判断しようとする思考」³⁾である。そして、「『相手を批判する』ということよりも自分の思考について意識的に吟味するメタ認知的思

¹九州看護福祉大学大学院 看護学専攻、²同大学院・教授

考」である⁴⁾。

批判的思考を用いることで、医学・看護学の科学的な知識だけでなく、それまでの看護実践の経験を吟味し、そこから導き出される結果と統合させた判断基準に基づき、多様で複雑な背景をもつ対象への計画的な看護実践が可能となる。

2017（平成29）年、文部科学省は「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」⁵⁾を策定し、卒業時までに身につけておくべき必須の看護実践能力を修得するための具体的な学修目標を示した。看護基礎教育課程において看護実践能力の全てを修得することは困難であり、看護実践能力の基盤となる能力の修得を目指している。看護実践能力の基盤の一つである批判的思考は教育可能なものとして考えられており、スキルをトレーニングすることによって獲得できる、とされている⁶⁾。看護基礎教育において、批判的思考のスキルを意図的にトレーニングできる場は授業であるが、授業時間だけでは時間の制約を受けるため、効果的に批判的思考を習得できる方法を検討することが重要であると考ええる。

そこで、本研究では、看護基礎教育における批判的思考習得の研究動向を文献調査により明らかにすることを目的とした。

【方法】

1. 対象文献

文献検索のためのデータベースは医中誌 web、最新看護索引 web、メディカルオンラインを用いた。2000年1月から2020年12月に発表された文献を対象とし、検索用語は「批判的思考」「クリティカルシンキング」「看護」を入力した。医中誌 web では96件、最新看護索引 web では16件、メディカルオンラインでは10件が該当した。検索用語に「看護基礎教育」を追加し、医中誌 web では63件、最新看護索引 web では9件、メディカルオンラインでは4件が該当した。次に、医中誌 web と最新看護索引 web、医中誌 web とメディカルオンライン、メディカルオンラインと最新看護索引 web の3通りの組み合わせをつくり、重複している文献を整理して削除した結果、医中誌 web の51件と最新看護索引 web の1件が該当した。なお、文献検索は2021年2月に行った。

2. 文献の分析

1) 分析対象

対象となった文献52件のうち、絞り込み条件として、原著論文で web 上での本文閲覧が可能であることとした。医中誌 web で40件の文献が該当した。次に40件の文献を精読し、批判的思考の習得について調査していること、看護基礎教育課程の学生を対象にしている研究であること、を条件として16件の文献を抽出し分析対象とした。

2) 分析方法

批判的思考習得を検証するために、以下の7点に着目して分析をした。

- (1) 2011（平成23）年の文部科学省「看護学教育の在り方に関する検討会（最終報告）」を基準にして、2000（平成12）年から2011（平成23）年、2012（平成24）年から2020（令和2）年の文献数を比較した。
- (2) 対象となった研究を学年で分類した。
- (3) 対象となった研究を領域・科目で分類した。
- (4) 対象となった研究を対照群の設定の有無で分類した。
- (5) 対象となった研究の調査内容を評価方法で分類した。
- (6) 対象となった研究の授業形態を講義・演習・臨地実習に分類した。
- (7) 学習活動をグループ学習あり・なしで分類した。

【結果】

1. 文献

対象となった文献52件のうち、絞り込み条件として web 上で本文が閲覧できる原著論文としたところ、医中誌 web で該当した40件の文献が該当した。この40件についてタイトル、抄録、本文を確認し、批判的思考またはクリティカルシンキングの習得に着目した調査である16件^{7)~22)}の文献を研究対象とした（表1）。

2. 批判的思考習得の検証結果

批判的思考またはクリティカルシンキングに関する論文16文献の発表の時期は、2000（平成14）年から2011（平成23）年文部科学省「看護学教育の在り方に関する検討会（最終報告）」までの期間には4

表1 本研究の対象となった16文献

著者	年度	タイトル	グループ学習の有無
川野ら ⁷⁾	2000	Inquiry-Based Learning as a Teaching-Learning Strategy for Critical Thinking in Mie Prefectural College of Nursing	○
小林ら ⁸⁾	2001	三重県立看護大学におけるクリティカルシンキング能力測定用具の開発 開発の初期の段階	
高井ら ⁹⁾	2005	在宅看護をグループ学習で学ぶ重要性	○
岩月ら ¹⁰⁾	2008	看護過程演習における評価と課題 成人看護学実習前演習の振り返り用紙の分析	○
前田ら ¹¹⁾	2012	看護学科における初年次教育・二年代教育の成果と課題	○
三國ら ¹²⁾	2012	看護学生の批判的思考態度に関する研究 看護学生および看護教育機関における特徴	
竹生ら ¹³⁾	2013	実践看護学演習による学生の思考過程形成の有用性(第1報)	○
鈴木ら ¹⁴⁾	2015	看護学生のクリティカルシンキングが看護実践力へ及ぼす影響	
一期崎ら ¹⁵⁾	2016	ディベートを活用した初年次教育の試み 看護学生のクリティカルシンキング志向性に着目して	○
李ら ¹⁶⁾	2016	クリティカルシンキング力の変化 領域別実習の前後における比較	○
宮部(森山)ら ¹⁷⁾	2016	看護専門科目におけるPBL・T・TBL混合型教育プログラムの評価	○
網木ら ¹⁸⁾	2017	基礎看護技術教育での学生の学びの深まりを促す教育的介入策を探る 振り返り用紙の分析	
久松ら ¹⁹⁾	2017	新設看護学部における課程外での初年次教育の成果 学生への調査から	○
柳原ら ²⁰⁾	2018	基礎看護学の「看護過程の枠組み(モデル)」の学習にアクティブラーニングを用いた教育の検討	○
李ら ²¹⁾	2019	看護大学生の臨地実習前後におけるクリティカル・シンキング-学習状況との関連とCT使用状況-	○
齋藤ら ²²⁾	2019	看護系大学生の批判的思考態度と関連する因子	

件、その後の2012年(平成24)年から2020(令和2)年までは12件であった。

1) 対象学年

1年生は4件、2年生(短期大学を含む)は4件、3年生は3件、4年生(大学以外の看護基礎教育課程最終学年を含む)は2件であった。複数の学年を対象にしたものは、1年生と2年生の調査が1件、3年生と4年生の調査が1件、1年次と4年次(縦断調査)が1件であった(図1)。

2) 専門領域・科目

調査対象となった領域・科目別の分類では、教養科目1件、教養科目と専門基礎分野1件、基礎看護学5件、成人看護学2件、在宅看護論1件、領域別臨地実習3件、看護基礎教育課程修了前3件であった。

3) 対照群の設定

16件の文献を対照群の設定別に分類したところ、対照群を設定している研究は8件、対照群を設定していない研究は8件であった。

対照群設定の内訳は、授業前後が3件(講義1件、

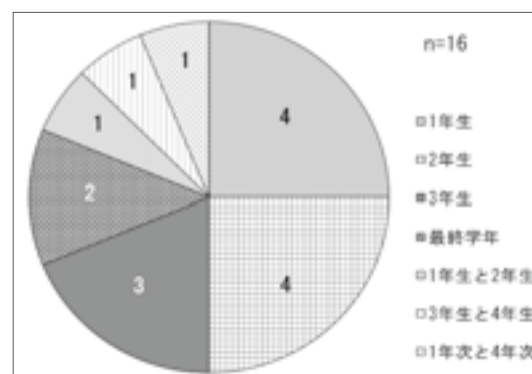


図1 研究の対象学年

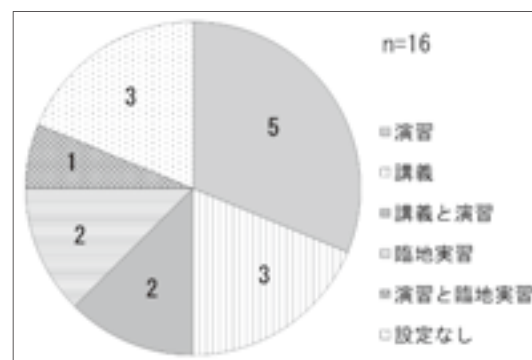


図2 16文献の授業形態

表2 グループ学習を対象とした研究の学習効果

著者	対象学年	授業形態	評価尺度の使用	学習成果
川野ら ⁷⁾	1年生	講義		授業後の自己評価において、質問項目「思考能力が向上した」「ほかのグループメンバーと協力できた」「学習意欲が強くなった」の得点が高かった。
一期崎ら ¹⁵⁾	1年生	講義	○ 7件法	授業後において、クリティカルシンキング志向性尺度 ^{※1)} の「全体」、【客観的で冷静な判断】【誠実さと他者を尊重する態度】の得点が有意に上昇した。
久松ら ¹⁹⁾	1年生	講義		講義終了後の28項目の調査において、批判的思考の自己評価（平均点）が最も高かった。
柳原ら ²⁰⁾	1年生	演習		課題設定学習（PBL）とジグソー法導入前後（異なる年度の同学年）について、導入後の学年は「看護の専門性への関心の広がり」「思考/検討する力の深まり」「情報の信憑性を見分ける力の深まり」は導入前の学年に比較して上昇はみられたが有意差はなかった。
高井ら ⁹⁾	短期大学 2年生	演習		授業後の振り返りにおいて、抽出された20カテゴリーの中に、「認識の多様性・深まりと新たな気づき・発見」「自分にはない考えに気づき成長する自分」が含まれていた。
前田ら ¹¹⁾	2年生	演習		学習スキルの獲得では、パソコンを操作に関する技術的スキルの自己評価は高かった。一方、論理的構成力や批判的思考力の獲得度は低かった。
宮部（森山）ら ¹⁷⁾	2年生	演習	○ 5件法	授業後において批判的思考態度尺度 ^{※2)} の「論理的思考への自信」、社会人基礎力 ^{※3)} の「シンキング」、グループ学習における課題解決能力の自己評価項目の「問題解決のスキル」「グループ討議のスキル」がの得点が有意に上昇した。
岩月ら ¹⁰⁾	短期大学 3年生	演習		振り返り用紙の分析にて、情報を多側面から考え対象がどのような状況に置かれているのか考えることの大切さを学んで一方で、情報の活用に困難を感じていた。
竹生ら ¹³⁾	3年生	演習と 臨地実習		看護過程の展開の自己評価について、演習前後の比較では演習後に全体に有意な上昇あり。実習中と実習後の比較においても実習後に有意な上昇あり。
李ら ¹⁸⁾	3年生	臨地実習	○ 5件法	実習後において批判的思考態度尺度 ^{※4)} 「論理的思考への自覚」「探求心」「証拠の重視」の項目に有意な上昇あり。クリティカルシンキング能力自己評価尺度 ^{※5)} 全26項目中19項目に有意な上昇がみられた。
李ら ²¹⁾	3年生と 4年生	臨地実習	○ 7件法	クリティカルシンキング測定尺度 ^{※6)} の総得点と下位尺度すべてにおいて実習後に有意に上昇した。クリティカルシンキングを用いる状況として【問題解決】【意見交換】【患者理解】【看護展開】【内省】が抽出された。

演習1件、臨地実習1件)、ディベート経験の有無が1件、異なる年度の同学年が1件、同じ年度の異学年1件、縦断調査（1年次と4年次）1件、教育機関別1件であった。

4) 調査内容

調査内容別の分類では、既存の尺度を中心にした調査は7件、学習活動時に作成した資料や学習後のレポートを中心とした調査は3件、自己評価を中心とした調査は5件、尺度開発が1件であった。

5) 教授方法と学習活動

授業形態の分類では、講義3件、演習5件、臨地実習2件、講義と演習の組み合わせ2件、演習と臨地実習の組み合わせ1件であった。授業形態の設定がないものは3件で、看護基礎教育課程修了前の調査であった（図2）。

学習活動の分類では、グループ学習を調査対象としたことが記述されている文献は9件であり、学習活動の記述のない文献は7件であった。ただし、学習活動の記述のない文献の内2件は臨地実習での調査であり、臨地実習は看護実践とカンファレンスで構成されるため、グループ学習として分類した。その結果、グループ学習を調査対象とした文献を11件（表2）とした。

【考察】

1. 研究の動向

本研究で対象とした論文は、2000年以降のものであった。16文献の発表の時期は、2000年から2011（平成23）年文部科学省「看護学教育の在り方に関する検討会（最終報告）」までの期間には4件、その後の2012年から2020年までは12件であった。

文部科学省における看護学教育に関する検討では、2002（平成14）年の「看護学教育の在り方に関する検討会（第1次）」²³⁾で看護実践能力の育成が取り上げられ、「看護実践を支える技術学習項目」が示された。2004（平成16）年の看護学教育の在り方に関する検討会（第2次）²⁴⁾では、看護実践能力の卒業時到達目標が明確化された。2003（平成15）年、厚生労働省では「看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書」²⁵⁾において、卒業時点の看護技術の実施機会の減少が課題として提示されるなど、看護技術習得について検討されていた。この時期は、医療の高度化・専門化に対応した看護、高齢化にともなった看護の必要性の高い患者への対応が求められており、このことが看護実践能力の中でも、卒業時までには習得すべき看護技術の教育に重

点が置かれる、ということにつながっていたと考えられる。

2008(平成20)年には中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」²⁶⁾において、学習成果の参考指針(学士力)が示された。学士課程における看護系人材の養成についても、看護系大学生の学習成果の具体的な達成水準が検討された。さらに、2011(平成23)年には大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会において、「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」²⁷⁾が策定され、『根拠に基づき看護を計画的に実践する能力』は批判的思考に基づくことが示された。同時期に、地域包括ケアシステムが法律上も位置づけられ(2011年)、多職種連携・チーム医療の推進や更なる医療安全への対応も求められる等、社会の変化にともなって看護師の役割や活動場所は多様化し、看護師にはさまざまな場面で適切な対応ができる看護実践能力が求められるようになった。これは、それまでに求められていた看護実践能力とは異なり、技術教育をも含めた能力育成だと考えられる。

さて、ここで批判的思考についてであるが、批判的思考は、「客観的にものごとをとらえ、多面的・多角的に検討し、適切な基準に基づき判断しようとする思考」²⁸⁾である。批判的思考を習得することは、看護実践において看護過程を展開するだけでなく、看護師が自らの経験についても振り返り、その意味を考え、経験から学習することにつながる。経験から学習したこともまた、看護師の批判的思考の基盤となるため、看護基礎教育課程において学生が批判的思考を習得しておくことは重要である。

批判的思考の研究件数は2000年から11年間で4件であったが、2012年以降の8年間では12件と増加傾向にあった。2011(平成23)年に批判的思考が看護実践の基盤であることが示され、2017(平成29)年には看護実践能力修得のための具体的な学修目標として「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」が策定された。これらが研究実施の増加の一因となったと考えられる。

2. 授業形態からみた学年と批判的思考習得の関連

授業にはさまざまな形態があるが、看護学教育においても、授業の形態は、学内における講義、演習などの授業と学外における臨地実習から成り立っている²⁹⁾。講義は教授者が学習者の前で教育内容をこ

とばで伝える授業の様式³⁰⁾をいい、概念獲得、知識習得が主要目的である学校教育においては、この形態を除外することはできない³¹⁾。演習は学内の施設を使用した実技の修得を目標とする授業³²⁾で、講義形態では修得困難な教育内容に対して用いる多様な教育方法³³⁾である。実習は、講義や演習を通して修得した知識や技術を実際の現場で活用、展開する形態の授業³⁴⁾である。

本研究の対象となった16文献が研究の対象としていた授業形態は、分類すると講義3件、演習5件、臨地実習2件、講義と演習の組み合わせ2件、演習と臨地実習の組み合わせ1件であった。授業形態の設定がないものは3件で、看護基礎教育課程修了前の調査であった。

授業形態の分類からは、批判的思考を学習するのに最も適していると研究者らが考えたのは演習(5件)、次に講義(3件)、その次に臨地実習(2件)であった。しかしながら、批判的思考習得の評価に用いられた方法・尺度はすべて異なっていたことから、授業形態から批判的思考習得の違いを見出すことは難しいと考えられた。

それぞれの授業形態において、研究の対象とされていた学年の内訳は、講義(3件)ではいずれも1年生を対象とし、演習では5件のうち4件が2年生(短大生を含む)、講義と演習の組み合わせでは1年生と2年生を対象としていた。演習と臨地実習の組み合わせでは、2年生を対象としていたが、臨地実習のみでは、3年生と4年生を対象としていた。

授業形態と研究の対象となった学年の組み合わせからは、批判的思考を学習するのに適していると研究者らが考えていたのは、1年生では講義、2年生では演習、3年生と4年生では臨地実習であった。このことから、対象学年と批判的思考の学習に適した授業形態との密接な関連がみてとれる。

1年生では講義において看護実践の基礎となる概念や知識を学習し、2年生では演習において既習知識を応用して各事例の看護過程を展開、3年生と4年生では臨地実習において既習の知識と技術を実際の現場で活用、展開する授業形態が用いられている。このことから、研究者らは看護実践における批判的思考力の獲得を段階として捉えていることが考えられる。そして、段階的に批判的思考力を獲得させるために、学年の進行に伴い、その内容を取り入れる

授業として、知識や技術の学習から実践への応用を主とする授業形態へと移行させていることが考えられる。また、研究者らは各学年において批判的思考の学習を積み重ねることが次の学年の学習での批判的思考の基盤となり、そして卒業時には看護実践の基盤となる批判的思考力を獲得することを目指している、と考察された。

3. グループ学習を通して習得する批判的思考

16文献が研究の対象とした学習形態の分類では、3人以上の小集団で学習を進めるグループ学習を採用している研究は9件で、学習活動の形態に関する記述がないものは7件であった。

批判的思考態度の習得のための学習活動として、討論が有効であるといわれている^{35)、36)}。討論することは、自他の考えを比較することによって、多面的に考えメタ的に自分の考えを省察することを促進する³⁷⁾というのがその理由である。

グループ学習を採用している授業の成果として、グループ討議中心の講義ではクリティカルシンキング志向性の「客観的で冷静な判断」「誠実さと他者を尊重する態度」を高め³⁸⁾、演習では授業後の「問題解決のスキル」と「グループ討議のスキル」の得点が有意に上昇し、「論理的思考への自信」も高まっている³⁹⁾、と述べられていた。グループ討議中心の講義においては、他者の意見を参考にすること、そして自分の考えと比較して客観的に考え判断する態度を習得できることが示唆されていた。

グループ討議中心の演習では、意見交換の経験を積み重ねることで討議スキルを習得し、問題解決のために既習得知識を応用し意見交換する。このような学習経験は論理的に思考する態度の習得、論理的思考への自信につながるが見出されていた。

学習活動の記述がない7件の研究の中には、臨地実習について調査した2件が含まれている。臨地実習の学習活動は、看護実践とカンファレンスで構成されている。臨地実習での学習活動の成果として、批判的思考態度尺度の得点が有意に上昇し⁴⁰⁾、クリティカルシンキングを用いる状況として「意見交換」と「内省」が抽出された⁴¹⁾と報告されていた。

グループ学習を採用した授業の成果から、グループ学習には意見交換の経験を積み重ねることで討議スキルを習得できること、他者との意見交換によって異なる視点で考え、客観的・論理的思考の習得や、

自らの看護実践を振り返る内省も促す、という効果があることが確認できた。講義、演習、実習いずれの授業形態においてもグループ学習は批判的思考力の獲得に有効であることが示唆されていた。

【結語】

1. 看護基礎教育における批判的思考の研究動向として、2000年から2020年に発表された研究は16件で、2012年以降増加傾向にあった。
2. 批判的思考態度を学習する授業形態では、1年生では講義、2年生では演習、3年生と4年生では臨地実習で、看護実践における批判的思考力の獲得については段階的に学年進行と授業形態とを関連づける傾向にあった。
3. 批判的思考態度を習得する学習活動において、講義、演習、実習のいずれの授業形態でも批判的思考力の獲得に有効だと示唆されたのはグループ学習であった。

【文献】

- 1) 日本看護協会. 2025年に向けた看護の挑戦 看護の将来ビジョン いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護. 2015. 公益社団法人日本看護協会ホームページ. <https://www.nurse.or.jp/home/about/vision/pdf/vision-4C.pdf> (2021年6月2日閲覧)
- 2) 文部科学省. 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会 最終報告. 2011. 文部科学省ホームページ. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/40/toushin/_icsFiles/fieldfile/2011/03/11/1302921_1_1.pdf (2021年5月14日閲覧)
- 3) 平山るみ. 批判的思考を支える態度および能力測定に関する展望. 京都大学大学院教育学研究科紀要. 2004; 50: 292.
- 4) 楠見孝. 批判的思考への認知科学からのアプローチ. 認知科学. 2018; 25: 462.
- 5) 文部科学省. 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会. 看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標

- ～. 2017. 文部科学省ホームページ.
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/_icsFiles/afiedfile/2017/10/31/1397885_1.pdf (2021年5月18日閲覧)
- 6) 楠見孝. 批判的思考の能力と態度の測定. 教育測定 カリキュラム開発講座研究会 (第6回研究会). 2005 : 1-18.
 - 7) 川野 雅 資, 他. Inquiry-Based Learning as a Teaching-Learning Strategy for Critical Thinking in Mie Prefectural College of Nursing. 三重県立看護大学紀要. 2000 ; 4 : 1-7.
 - 8) 小林文子, 他. 三重県立看護大学におけるクリティカルシンキング能力測定用具の開発－開発の初期の段階－. 三重県立看護大学紀要. 2001 ; 5 : 83-89.
 - 9) 高井俊子, 他. 在宅看護をグループ学習で学ぶ重要性. 看護教育. 2005 ; 46(12) : 1120-1126.
 - 10) 岩月すみ江, 他. 看護過程演習における評価と課題－成人看護学実習前演習の振り返り用紙の分析－. 飯田女子短期大学紀要. 2008 ; 25 : 179-190.
 - 11) 前田由紀子, 他. 看護学科における初年次教育・二年次教育の成果と課題. 西南女学院大学紀要. 2012 ; 16 : 15-24.
 - 12) 三國裕子, 他. 看護学生の批判的思考態度に関する研究－看護学生および看護教育機関における特徴－. 日本看護研究学会雑誌. 2012 ; 35 (1) : 79-88.
 - 13) 竹生真規, 他. 実践看護学演習による学生の思考過程形成の有用性 (第1報). 鹿児島純心女子大学看護栄養学部紀要. 2013 ; 17 : 25-33.
 - 14) 鈴木亜衣美, 他. 看護学生のクリティカルシンキングが看護実践力へ及ぼす影響. 大阪府立大学看護学部紀要. 2015 ; 21(1) : 13-20.
 - 15) 一期崎直美, 他. ディベートを活用した初年次教育の試み－看護学生のクリティカルシンキング志向性に着目して－. 第46回 (平成27年度) 日本看護学会論文集 看護教育. 2016 : 71-74.
 - 16) 李慧瑛, 他. クリティカルシンキング力の変化: 領域別実習の前後における比較. 鹿児島大学医学部保健学科紀要. 2016 ; 26(1) : 21-33.
 - 17) 宮部 (森山) 明美, 他. 看護専門科目におけるPBL-T・TBL 混合型教育プログラムの評価. 保健医療福祉科学. 2016 ; 6 : 10-15.
 - 18) 網木政江, 他. 基礎看護技術教育での学生の学びの深まりを促す教育的介入策を探る－振り返り用紙の分析－. 山口医学. 2017 ; 66(2) : 113-122.
 - 19) 久松桂子, 他. 新設看護学部における課程外での初年次教育の成果－学生への調査から－. 第47回 (平成28年度) 日本看護学会論文集 看護教育. 2017 : 51-54.
 - 20) 柳原清子, 他. 基礎看護学の「看護過程の枠組み (モデル)」の学習にアクティブラーニングを用いた教育の検討. Journal of Wellness and Health Care. 2018 ; 42(1) : 105-112.
 - 21) 李慧瑛, 他. 看護大学生の臨地実習前後におけるクリティカル・シンキング－学習状況との関連とCT使用状況－. 医学教育. 2019 ; 50 (2) : 160-168.
 - 22) 齋藤愛依, 他. 看護系大学生の批判的思考態度と関連する因子. 第49回 (平成30年度) 日本看護学会論文集 看護教育. 2019 : 23-26.
 - 23) 文部科学省. 看護学教育の在り方に関する検討会 (第一次) 報告. 2002. 文部科学省ホームページ. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/018/gaiyou/020401.htm (2021年5月14日閲覧)
 - 24) 文部科学省. 看護学教育の在り方に関する検討会 (第二次) 報告. 2004. 文部科学省ホームページ. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/018-15/toushin/04032601.htm (2021年5月14日閲覧)
 - 25) 厚生労働省. 看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書. 2003. 厚生労働省ホームページ. <https://www.mhlw.go.jp/shingi/2003/03/s0317-4.html> (2021年5月14日閲覧)
 - 26) 中央教育審議会. 学士課程教育の構築に向けて (答申). 2008. 文部科学省ホームページ. https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afiedfile/2008/12/26/1217067_001.pdf (2021年5月18日閲覧)
 - 27) 前掲書 2) : p.21.
 - 28) 前掲書 3) : p.292.
 - 29) 杉森みど里, 他. 看護教育学 (第6版). 東京:

- 医学書院；2016. p.215.
- 30) 平原春好, 他編. 新版教育小辞典 (第2版). 東京：学陽書房；2006. p.114.
- 31) 前掲書29)：p.215.
- 32) 舟島なをみ. 看護学教育における授業展開一質の高い講義・演習・実習の実現にむけて. 東京：医学書院；2013. p.7.
- 33) 前掲書29)：p.218.
- 34) 前掲書32)：p.7.
- 35) 前掲書4)：p.468.
- 36) Marcia A. Petrini. 看護教育と臨床実践の両場面における, 科学的探究・批判的思考の活用. *Quality nursing*. 2002；8(6)：29-40.
- 37) 前掲書4)：p.468.
- 38) 前掲書15)：p.72-73.
- 39) 前掲書17)：p.12-13.
- 40) 前掲書16)：p.25.
- 41) 前掲書21)：p.163-165.
- 42) 廣岡秀一, 他. クリティカルシンキングに対する志向性の測定に関する探索的研究. 三重大学教育学部研究紀要, 教育科学. 2000；51：161-173.
- 43) 常盤文枝, 他. 看護基礎教育における批判的思考態度を測定する尺度の信頼性と妥当性の検討. 日本看護教育研究学会誌. 2010；20(1)：63-71.
- 44) 経済産業省. 社会人基礎力育成の手引き－日本の将来を託す若者を育てるために. 東京：朝日新聞出版；2010.
- 45) 平山るみ, 他. 批判的思考態度が結論導出プロセスに及ぼす影響－証拠評価と結論生成課題を用いての検討－. 教育心理研究. 2004；52：186-198.
- 46) 田村由美, 他. 臨床看護婦のクリティカルシンキング－個人属性とCT能力の自己評価と関連性. 香川医科大学看護学雑誌. 1997；2(1)：46-60.
- 47) 石橋鮎美, 他. 臨床看護師のクリティカルシンキングを測定する尺度の開発. 日本医学看護学教育学会誌. 2015；24(2)：7-12.
- リティカルシンキングに対する志向性は、「客観的で冷静判断」「誠実さと他者を尊重する態度」「探求的・追究的思考」の3つの因子から構成されている。
- 2) 批判的思考態度尺度⁴³⁾は、常盤ら(2010)によって作成された尺度である。看護基礎教育における批判的思考を支える態度は、「懐疑的態度」「協同的態度」「根気強さ」「探求心」「論理的思考への自信」の5つの因子で構成されている。
- 3) 社会人基礎力⁴⁴⁾は、経済産業省(2006)から打ち出された概念で、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」と定義されている。「アクション」「シンキング」「チームワーク」の3つの能力とそれぞれの要素である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「創造力」「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」「規律性」「ストレスコントロール力」の12の能力要素で構成されている。
- 4) 批判的思考態度尺度⁴⁵⁾は、平山ら(2004)によって作成された尺度である。批判的思考の構成要素である態度は「論理的思考への自覚」「探求心」「客観性」「証拠の重」の4つの因子で構成されている。
- 5) クリティカルシンキング能力自己評価尺度として、田村ら(1997)が作成した「クリティカルシンキング能力自己評価調査票」⁴⁶⁾が用いられた。この調査票は「自己認識力」「主体性」「問題解決能力」「コミュニケーション能力」「根拠づけへの自信」「柔軟性」「オープンマインド」「思慮深さ」「文章表現力」「読解・学習力」「公正さ」「懐疑の姿勢」「知的謙虚さ」「忍耐強さ・継続性」「知的成熟度」「共感的」「緻密性」「自己決定・意思決定力」「知的的好奇心」「真理への探究」「知的誠実さ」「予測・洞察力」「直感力」「現実的」「協調性」「創造性」の26項目で構成されている。
- 6) クリティカルシンキング測定尺度として、石橋ら(2015)が作成した「臨床看護師のクリティカルシンキング測定尺度」⁴⁷⁾が用いられた。この尺度は「論理的思考」「開かれた柔軟な思考」「粘り強い熟慮」「省察的検討」「創造的思考」「直観」の6因子で構成されている。

【注釈】

- 1) クリティカルシンキング志向性尺度⁴²⁾は、廣岡ら(2000)によって作成された尺度である。ク

[Review]

Critical Thinking in Basic Nursing Education: A Literature Review

Kaori Ito^{1*} and Keiko Shibata²

¹ *Graduate Program of Nursing, Graduate School of Nursing and Social Welfare,
Kyushu University of Nursing and Social Welfare*

² *Graduate School of Nursing and Social Welfare, Kyushu University of
Nursing and Social Welfare*

[Abstract]

[Purpose] This study reviewed research trends related to critical thinking in basic nursing education through a literature survey.

[Methods] Articles were collected from the Ichushi-Web, the Latest Nursing Index Web, and the Medical^{*} Online. The search terms “*hihanteki shiko*,” “critical thinking,” and “basic nursing education” were used. Articles were then classified by year of publication, nursing student year, lesson style, and learning activities.

[Results] Sixteen articles were extracted, and a relationship was found between nursing student year and lesson style. Three articles focused on the lecture lesson style for first-year students. Of the five articles using classroom training, four of them focused on second-year students. Two articles utilizing nursing clinical practice focused on third and fourth-year students. Eleven articles addressed learning activities using group learning. For lectures and classroom training, it was reported that scores of “objective and calm decision-making,” “the students’ attitudes to respect honesty toward others and attitudes that the students’ should respect others,” “problem-solving skills,” “group discussion skills,” and “confidence in logical thinking” were statistically significant. In terms of nursing clinical practice, “exchange of opinions” and “reflection” were used to promote critical thinking.

[Discussion] These findings suggest an association between advancement of school year and lesson style for the acquisition of critical thinking skills in nursing practice. Furthermore, findings suggest that group learning is an effective lesson style for promoting these skills across different methods of teaching, including lecture, classroom training, and nursing clinical practice.

Keywords: *critical thinking, basic nursing education, lesson style, group learning*

* Corresponding author